

講義内容

領域	タイトル	氏名	講座内容
必修	心の問題に対する認知行動療法的支援	家接哲次	本講は、カウンセリングを行う際に必要な知識を学びます。まず、注意して扱う必要がある心の問題（特にうつ病）について解説をします。その後、うつ病などに対し効果が実証されている認知行動療法について解説していく予定です。
	子どもの発達に関する課題	楯 誠	この授業では、教育・保育の場で近年より深い理解が求められている発達障害のある子どもたちを取り上げ、その具体的特徴を解説します。また、これらの子どもたちへの働きかけの1つとして、心理学の知見（学習理論）に基づくアプローチを取り上げます。
	専門職たる教員の役割	日比野 博	教員に対する社会的要請の厳しさは、期待の裏返しでもあります。そこで、子ども観・教師観や教員に求められる資質・能力などについて考え、先生方同士の実践の振り返りや情報交換などを通して、専門職たる教員の役割について考えを深めていきます。
	教育政策と学習指導要領の動向	田中秀佳	近年の教育改革（教育政策および学習指導要領）の動向・特徴を確認しつつ、受講者が日々の教育活動を振り返り、考えていくことに主眼を置いて講義を進めます。
選択必修①	家庭、学校、地域の連携及び協働	前原 宏一	子どもの貧困に象徴される家庭の生活課題、教員の多忙化をはじめとする学校の課題、生活基盤としての地域の空洞化などを背景とした子どもの発達の課題に対応していくための専門職・専門機関との連携・協働のあり方を考えます。
	学校安全と危機管理	田中秀佳	教育機関において最も基本的で重要なこと、それは児童生徒の安全です。また、教育者の労働条件＝子どもの教育条件であり、教職員の安全もまた、重要です。日常の教育活動を守るため、学校安全と危機管理のあり方を考えます。
	学校をめぐる状況変化	前原 宏一	近年の教育に関する意識（子どもたちの生活や学習に関する意識及び保護者の学校教育や教育改革に関する意識）や経済状況（格差の拡大等）の概要にふれ、それらが学校や子どもたちにどのような影響を与えているか、その問題点は何かを探り合いながら考えを深めていきます。
	幼児教育と小学校教育の円滑な接続	長江美津子	学習要領では、育成を目指す資質・能力の観点において、幼児教育から高等学校教育までの一貫性や、その出発点となる幼稚園教育について「小学校は幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえて教育活動を実施すること」と示され、課題でもある。皆さんと円滑な接続の在り方を考えていきたいと思います。

講義内容

領域	タイトル	氏名	講座内容
選択必修②	教育の情報化 (情報モラルとセキュリティ)	小川哲司	スマートフォンの普及に伴い、スマートフォンに起因するトラブルなどが社会問題化されつつあります。 情報ネットワーク社会では、仮想世界と現実世界によって日常生活が営まれていくことが前提となりますが、仮想世界でのモラルやセキュリティを軽視することにより、思わぬ事故や事件に巻き込まれるケースが多いです。情報通信技術の特性を踏まえた上で、子ども達の安心・安全を考えていきたいと思えます。
	教育の情報化（ネットワーク環境下のコンテンツ作成）	吉川伸一	インターネットが急速に普及し、学校でも情報化が進められ、コンピュータや学内LANなどの情報機器や通信ネットワークが整備されています。それらを活用した授業が盛んです。その環境下、IT機器を利用した教材の作り方、新しい授業の進め方を取り上げて解説します。
	教育の情報化（ネットワーク環境下における情報活用能力の育成）	吉川伸一	学校の現場では、課題や目的に応じた情報手段の適切な活用、必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造、受け手の状況などを踏まえた発信・伝達などが求められます。多様化している情報活用能力の育成について、小学校、中学校、高等学校別に考察していきます。
選択	食の指導	早川麻理子	学校教育において、食育推進は心身の健康増進に重要であり、食に関する指導の充実が求められています。肥満や食物アレルギーなど身近な疾患の個別指導やスポーツ時の熱中症予防など、児童・生徒が抱える栄養問題を取り上げ、食の評価と指導法について講義を行います。
	子どもたちに、ルールをどう教えるか？	高橋勝也	人間形成において、社会に適応するためのルールを守る姿勢と態度は必要不可欠です。幼小段階の子供たちは、厳しく指導すれば、先生、大人の言うことは聞くでしょう。しかし、中等教育段階、高等教育段階においてルールを守る意義を理解するためには、幼小段階で気づいておくべきことがあります。皆さんと一緒に考察していきます。
	子どもを見る目の心理学	多川 則子	子どもを理解することは教師にとって最大の課題です。しかし、私たちが“人を見る”ときには、くせや偏りがあります。教師が子どもを見る場合も例外ではありません。この講座では、人を見るときにくせや偏りに関する心理学の知見を紹介し、グループワークを通して学びます。

講義内容

領域	タイトル	氏名	講座内容
選 択	[選択A●] 子どもの絵の見方	塚本 敏浩	幼児保育・小学校図画工作において、子どもの絵をどう理解したらよいのか、どう評価したらいいのか、という声がよく聞かれます。どなたも絶対に辿ってきた道なのに、子どもの絵がよく分からないというのは、なんか不思議な気がしますよね。造形教育における子ども理解のために、「子どもの絵をどう見るか？」具体的な子どもの絵を参考にして、一緒に考えていきましょう。
	[選択B●] ◆ 体育 (体づくり運動系)	久我アレキサンデル	この講義では、領域「体づくり運動系」の「多様な動きをつくる運動（遊び）」と「体の動きを高める運動」をとりあげます。児童の体力傾向や現状、授業実践例を紹介し、体の基本的な動きや体力を高めるための運動（遊び）について、実際に体を動かしながら、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。 【ご用意いただくもの】ジャージなどの運動のできる服装、体育館シューズ、飲み物（水分補給のため）、汗拭きタオルなど
	虹は何色？	渡辺 道斉	日本人の私たちは、「虹は七色」と言います。ところが、ロシアでは一般に「虹は四色」と言います。なぜ、こんな風に違うのでしょうか？日本人とロシアの目は、どこか性質や構造が違うのでしょうか？もちろん、そんなことはありません。では、なぜこんな違いが生まれるのでしょうか？今回は、色をテーマにして文化の違いを見てみましょう。
	「法は家庭に入らず」？ 家庭から法と社会を考える	清水 裕樹	「法は家庭に入らず」と言われてきましたが、家庭内の体罰を犯罪として処罰の対象とする最近の傾向など、変わってきたという見解もあります。社会の最小の単位である家庭を場に、法と社会について考えてみましょう。
	授業のユニバーサルデザイン化	関谷みのぶ	みなさんは、ユニバーサルデザインときいて、何を思い浮かべるでしょうか。シャンプーの凸凹やピクトグラム（絵文字）をイメージするかもしれませんが、こうした製品や設備といった目に見えるものだけでなく、サービスなどにも広がりを見せており、教育の現場でも注目されています。受講者間で意見交流をすることで、すべての子どもたちが主体的に学べるような環境づくりについて一緒に考えましょう。

講義内容

領域	タイトル	氏名	講座内容
選 択	[選択C●] ◆コミュニケーション ゲームから演劇体験 へ	加藤 昇	授業の中に演劇的手法を取り入れることは、人間に対する深い認識を育てることにつながります。ここでいう演劇とは大勢の人に観せるものではなく、自分たちが楽しむもの、学びの中に生かすものです。本講座では、身体表現のウォーミングアップ（コミュニケーションゲーム）から簡単な劇作りまで行います。動きやすい服装でお願いします。
	[選択D●] ♪音楽 (サウンドスケープにつ いて)	秋田 郁	耳を澄ませてみると、身の回りには意外にたくさんの音があふれていることに気が付きます。マリー・シェーファーが提唱する「サウンドスケープ（音の風景）」についての体験を通して、子どもたちを取り巻く音の環境についてお話します。生活の中の身近な音に聞き耳を立て、広義の「音楽」について一緒に考えていきましょう。
	[選択E●] ▼新学習指導要領 における算数教育の 課題	東岡 博	今回の指導要領改訂で、新たに「資質・能力の3つの柱」の育成が示されました。授業で目指すものが変わるといことは、当然、授業の課題やめあての見直しが求められます。2年目になり、出てきた課題等を共有しながら、算数の授業づくりについて考えていきましょう。
	[選択F●] 学校と博物館との連 携	飯田 幸恵	学校と社会教育施設である博物館が連携する「博学連携」の取り組みについて、事例を交えながら学びます。子どもたちが実際に見て触れて学ぶなどの実体験が少なくなる中で、学校の授業等における博物館の活用法などを検討し、「博学連携」の取り組みを通して子どもたちにどのような豊かな体験がもたらされるのかについて考えます。
	ストレスと上手につき 合おう ～教師自身 のバーンアウトを防ぐ ために～	野副 紫をん	日本の教師は、世界の教師の中で最も多忙と言われます。「子ども達のために！」とがんばり過ぎて、燃え尽きてしまう（バーンアウト）先生も少なくありません。本講習では、ストレスによって起こる心身の反応やストレスの仕組みを学ぶとともに、自分で簡単にできるリラクゼーション法を体験し、ストレスへの対処法を身につけます。
	学校における食育	倉橋 伸子	子どもたちが生涯にわたって健全な食生活を営むことができるよう学校における食育が進められています。学校全体で行う食育の進め方について学校給食の実態や実践例を紹介しながら解説します。また、子どもたちの発達段階に応じた効果的な食育の展開について考えます。
	学校事故をめぐる責 任と教育	萩原 聡央	学校で児童や生徒が何らかの被害を被った場合、学校設置者は被害者から損害賠償を求められるのが一般的です。この講座では、裁判例を素材にしながら、学校設置者はどのような場合に損害賠償（とりわけ国家賠償）責任を負うのかについて考えることにします。